

第 43 回 ECE プログラム委員会幹事会 議事録

1. 日時：平成 29 年 12 月 19 日（火曜日）15:00-17:00
2. 場所：森戸記念館（第 3 会議室）
3. 出席者：（アンダーラインで示す、なお以下敬称略）須藤亮（CPD 協議会会長 & ECE 委員長）、石原直（協議会副会長 & ECE プログラム委員会委員）、武田晴夫、秋永広幸、渡邊 誠、加藤穂慈、京谷美代子、田辺朗、松村正明、持田侑宏、広崎膨太郎（オブザーバ） 奥津良之（記録）
4. 配付資料
資料 43-1 第 42 回 ECE プログラム幹事会議事録（案）（H29/10/17）
資料 43-2 NIMS 平成 29 年度 ECE プログラム状況報告（カラーバージョン）
資料 43-3 SICE 平成 29 年度 ECE プログラム状況報告
資料 43-4 IoT に関する新 ECE プログラム開発状況報告
（NEDO 連携 IoT 推進のための横断技術開発プロジェクトの状況）
資料 43-5 エレクトロニクス系ハードウェア高度技術者養成 ECE プログラム
開発状況報告
①ナノファブスクエア開催案内
②電子情報通信学会教育担当理事（杉山理事）との Eメール交換状況
資料 43-6 H29 第 2 回 CPD 協議会公開シンポジウム FLYER
資料 43-7 CPD 協議会平成 30 年度事業計画案と中間報告
5. 委員長挨拶 ECE プログラムが着実に活性化してきた旨 挨拶戴き審議に入った。
6. 前回議事録（案）確認
第 1 頁下から 4 行目 誤記訂正（×サイズ→○NIMS）
第 2 頁 5 行目 誤記訂正（×10 月 17 日→○10 月 6 日）
第 2 頁 10 行目 誤記訂正（×解説し、生徒場集→○開設し、生徒募集）
をもって議事録案は承認された。
7. 各報告
（1）NIMS ECE 状況報告 資料 43-2 を用いて渡邊委員から、物質・材料基礎 ECE プログラムの H29 年度実施状況について実施状況は順調である旨報告があった。直近では 11 月 17 日「パワーデバイス材料としての GaN と SiC・・・結晶欠陥から見た材料の特徴」（会場：八重洲 講師関口隆史氏）を実施した。講義 12 名、ゼミ 9 名。ただし、徐々に参加者が減少傾向にある。聴講者をさらに多数集めるべく、広報手法を工夫したい。ご参考 NIMS イブニングセミナー evening-seminar@nims.go.jp
意見として

○産業界からの参加者が多いのであれば 有料制にすると社の予算決裁者の監視下に置かれることによって、学習の深化と継続性が担保されると考えられる。 国立機関でもSICE塾のような受講料前払い制は検討できないか??

○他の研究機関（大阪大PJ, 文科省PJなど）でも nano 教育プログラムがある由、そことの連携工夫が図れないだろうか?少なくとも調査はした方が良いと思われる。

○全体を通してのメッセージを作り、もっと広い方面に流布したらどうか?

引き続きECEプログラム発展的に推進戴く様、委員長から激励の言葉があった。

(2) SICE 奥津委員より、プロセス新塾 2017 の実施状況につき口頭報告があった。

●第4回スクーリングを慶應大学日吉キャンパス来往舎を会場として12/1&2実施した。

座学では安全特論4件の講演も実施され、全6件講座で大いに学習体験できた。

●相互確認タイムはますます盛況を極め、学修討論が各島で活発に行われた。

●交流会も盛況であった。塾長囲み第4次会まで実施された。

●昨年から開校式でECEプログラム修了要件につき主査から10分間程度説明をしている。その効果と思われるが、提出されるレポートの質が飛躍的に高まった傾向は維持されている。**ECEプログラム認定効果は確実にあると判断される。**

(3) 産総研 IoT プログラム（開発中）は試行および準備は順調に推移の旨 代行の奥津幹事から報告があった。資料43-4を使用した。具体的には、

●実習につき大好評であったので 追加回を次週に行う。なお一回目の実習でのアンケート結果は <https://www.iot-aidevice.org/> を参照されたい。

このアンケート結果の抜粋を奥津幹事長が読み上げた。そのうちの3件を引用すると、

・材料研究がデバイス、AIと広く展開してゆくイメージを持てたのが大変に興味深かった。また開発チーム作りの重要性も同時に認識できた。

・全体を俯瞰した上で研究が求められている。従来のを超えて互いを理解する横断的なスクールを今後も開催していただけると 助かります。

・できれば年1回ではなく、数回実施して戴けたらな、と思います。

引き続きECEプログラム発展的に推進戴く様、委員長から激励の言葉があった。

(4) エレキ・イノベーション人材**ECEプログラム Feasibility Study につき 資料43-5を参照、①まず石原副委員長からナノファブスクエアのECEプログラム認定に関して前向きに考えたい旨ご報告があり、全員でディスカッションを実施した。石原先生案では 本件は現在一年目である、そこで4月以降（つまり一年間実績を見て）先方の

三宅先生にECE幹事会に来て頂き、合議し結論を出す、のが良いのではと提案があり、全員合意した。(決定)

●電子情報通信学会(以下IEICEと略記)との合議について奥津幹事から報告があった。

①11月13日IEICE会議室にて杉山理事(教育担当)、喜多総務部長、蓑毛事務局長と奥津で会議を90分間もった。

②ECEに関する情報を伝えた。とくにSICE手法を資料基に概略説明した。

③すでに篠原IEICE会長に広崎オブザーバから検討要請書が発信されているので、IEICE主体での塾形式教育プログラム開発についてはこのメンバー内では概ね理解された。

④ただし、不定期に教育委員会が開催され、そこでの判断が必要である。その後理事会に付議したい。ということでした。(本日までにまだIEICE教育委員会は開催されていない。)

⑤したがって、当方が期待しているほど速やかにIEICE主体の開発活動が進まないかも知れない。そこで以下の判断をECE幹事会として下した。すなわち、

●近い将来的にはIEICE教育委員会に主体を担って進める希望方針に変更ないが、両輪他方の如く進めるチームとしてエレキハード人材ECE推進タスクフォース(TF)*を当ECE幹事会下に作り、できるところから、講師選定、テキスト内容準備などを進める。

●エレキ人材ECE推進TF**は来年1月に立ち上げ、服部武塾長、奥津TFリーダー、NEC有志、富士通有志、東芝有志、京谷幹事でスタートさせる。適宜広崎オブザーバ、石原副委員長のアドバイスを得る。(服部塾長には経過につき別途ご相談します)

8. 理事会資料についての合議

資料43-7をたたき台として、奥津幹事長が改定案を1月10日までに作成し、事務局に送付することとした。新規ECEプログラムについての話を盛り込む。

9. その他

ECEプログラム委員会を2018年2月に開催する。そのため幹事長が岸先生と中村委員のご予定を調査し、お二人のANDの日を以って開催準備を後日幹事会に知らせる事、と申し合わせた。(12月28日両氏の秘書に連絡済)

注** **エレキハード人材ECE推進タスクフォースは仮称であり、TFのKickoff会議後塾長を含めて協議し、すみやかに正式名称を決めるものとする次回(第42回会合)は2018年2月19日(月)15:00~17:00を申し合わせて閉会とした。8名の参加で忘年会を神楽坂丸政にて催行し、本年の労を相互に労った。

以上